

第 4 回

熊本県議会

国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成27年12月10日

開 会 中

場所 第 1 委 員 会 室

第 4 回 熊本県議会 国際スポーツ大会推進特別委員会会議記録

平成27年12月10日(木曜日)

午前9時58分開議

午前11時29分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件
- (2) ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件
- (3) 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件
- (4) ラグビーワールドカップ2015イングランド大会視察報告
- (5) 付託調査事件の閉会中の継続審査について
- (6) その他

出席委員(15人)

委員長 溝口幸治
 副委員長 田代国広
 委員 氷室雄一郎
 委員 藤川隆夫
 委員 荒木章博
 委員 重村栄
 委員 西聖一
 委員 早田順一
 委員 高野洋介
 委員 濱田大造
 委員 橋口海平
 委員 河津修司
 委員 松村秀逸
 委員 中村亮彦
 委員 松野明美

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

商工観光労働部

政策審議監 奥 菌 惣 幸

観光経済交流局長 小 原 雅 晶

観光課長 満 原 裕 治

国際課長 磯 田 淳

くまもとブランド

推進課長 成 尾 雅 貴

教育委員会

教育理事 金 子 徳 政

教育政策課長 田 村 真 一

体育保健課長 平 田 浩 一

総務部

人事課長 青 木 政 俊

企画振興部

地域・文化振興局長 山 本 國 雄

地域振興課審議員 小 牧 裕 明

健康福祉部

障がい者支援課長 井 上 康 男

土木部

道路都市局長 手 島 健 司

都市計画課審議員 緒 方 誠

警察本部

警務課長 林 修 一

交通規制課長 木 庭 俊 昭

総合企画室長 井 野 新 輝

事務局職員出席者

政務調査課主幹 松 野 勇

政務調査課主幹 法 川 伸 二

午前9時58分開議

○溝口幸治委員長 おはようございます。ただいまから第4回国際スポーツ大会推進特別委員会を開会いたします。

それでは、審議に入ります。

お手元に配付しております本日の次第に従い、まず執行部から一括して説明を受け、その後、質疑は議題ごとに行いたいと思います。

なお、委員会の運営を効率的に行いたいと考えておりますので、説明につきましては簡潔をお願いいたします。

○満原観光課長 観光課でございます。

本日は、9月委員会以降に実施しました取り組み並びにラグビーワールドカップ2015イングランド大会視察について御報告させていただきます。

前回以降の取り組みなどにつきましては、アンダーラインを引いておりますので、その箇所を中心に説明させていただきます。

お手元の資料、まず、2019女子ハンドボール世界選手権大会熊本開催についてでございます。

5ページをお願いいたします。

大会PRの実施についてです。

8月のシンボルマークの決定を受けまして、これを活用しましたポスターやチラシなどを作成し、各種イベントでPRを実施しております。

10月のラグビーのイングランド大会において開設されましたジャパンパビリオンにおきましてもポスター掲示を行うとともに、名刺サイズのもの配布いたしました。

また、熊本市及び山鹿市で開催されましたハンドボール日本代表の合宿や、リオ五輪女子アジア予選においてもPRいたしております。

6ページをお願いいたします。

今月の27日、日本ハンドボール選手権大会の決勝戦におきまして、シンボルマーク受賞者の表彰式を行います。

決勝戦の様子はテレビで放映される予定でございます。

次に、デンマーク大会の視察概要を御説明

いたします。

お手元の資料、別添資料1をお願いいたします。

視察先は、4会場の全てを行います。

今後の大会の概要それから規模感を把握し、準備に生かしていくことを目的としております。視察員は、2班の合計25人、視察期間は、12月4日から23日までを予定しております。

視察項目は、ラグビーのイングランド大会と同様に宿泊、輸送などの大会運営状況、都市装飾等の開催都市、会場装飾等の試合会場調査を予定しております。

済みません、また委員会の資料をお願いいたします。

ラグビーワールドカップ2019熊本開催についてです。

資料の8ページをお願いいたします。

2019の日本大会の概要について御説明いたします。

開催期間は、2019年9月20日の東京スタジアムの開幕戦から、11月2日の横浜国際総合競技場での決勝戦まで、44日間となっております。

日本大会の特徴は、アジアで初のワールドカップ、ラグビー伝統国以外での初のワールドカップ、それからラグビー7人制がオリンピック種目に採用されてから最初の大会となっております。

10ページをお願いいたします。

協賛宝くじの発行について御説明いたします。

7月31日、全国の開催自治体で構成するラグビーワールドカップ2019開催自治体協議会から、全国自治宝くじ事務協議会に対しまして、協賛宝くじの発行を要望しております。これを受けて、10月9日に発行が決定されました。

宝くじの発行には議会の議決が必要でございますため、発売自治体で手続が進められて

おります。本県においても、この12月定例会に議案を上程中です。

なお、発売商品等の詳細な情報については、今後正式に決定しましてから御報告いたします。

11ページをお願いいたします。

ラグビーワールドカップ2015イングランド大会視察につきましては、後ほど詳細に御報告いたします。

大会期間中4班に分けて視察を行っており、視察員は29人になっています。

次に、イングランド大会のパブリックビューイングでは、10月3日の日本代表対サモア代表戦においても約630名の方においでいただき、盛況でございました。

12ページをお願いいたします。

各種イベントでの大会PRとして、組織委員会の夢プロジェクトを実施いたしました。先日6日に開催されましたラグビートップリーグの際に組織委員会のブースを設置し、来場の皆様方にホワイトボードに2019年への夢やメッセージを書いていただきまして、それをお持ちいただき、その写真をその場で撮影してお渡しいたしております。

次に、ラグビーワールドカップ2019の新トーナメントマークの発表について御説明いたします。

10月28日に発表され、テーマは「ユニティ」となっております。ラグビーの精神を共有し団結すること、開催都市を中心に日本全国が結束することをあらわしております。ワールドラグビーのラパセ会長も、日本大会のキーワードは「ユニティ」と言われております。

また、ホストシティマークについて、現在、組織委員会がワールドラグビーと協議中でございます。

次に今後のスケジュールについてですが、現在スタジアム検討部会を設置し民間の専門業者に委託し、収容人員数のスタジアム規模

について検討いたしております。具体的には、組織委員会と意見交換しながら、仮設席の設置数、形態について検討するとともに、消防法などの関連法令の整備を進めております。

また、来年3月には、スタジアム整備等に係るスタジアム運営計画設定に係る基本方針を策定する予定でございます。

続きまして、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会関係について御説明いたします。

16ページをお願いいたします。

まず、全国知事会のほうで組織委員会が設置いたしました現在募集中の事前キャンプ候補地ガイドの基準に満たない施設についても、広く情報発信していくためのデータベースサイトを開設いたしました。これは、将来の大学、実業団などの合宿も視野に入れた取り組みとなっております。10月30日現在で県内分は19施設、追加申請分を合わせれば23施設が掲載されております。

次に、キャンプ受け入れについて御説明いたします。

本年10月に熊本市において男子ハンドボール日本代表、11月に山鹿市において女子ハンドボール日本代表の強化合宿を受け入れております。合宿期間中、小学生対象の体験教室や高校生の講習会などが開催されております。

17ページをお願いいたします。

11月20日、市町村に対してホストシティタウン構想に関する説明会が開催されております。内閣官房の担当者からの事業説明や、最新の状況についての説明があっております。

ホストシティタウン構想とは、オリンピック・パラリンピックの開催効果を一過性のものでしないために、大会前後を通じて交流などの取り組みを継続することが必要となります。県としましては、現在、県内市町村の姉妹提携など継続した交流の取り組みができる

国を対象に、登録申請に向けて国と協議中でございます。

なお、ホストシティの名称がオリンピック・パラリンピックの開催都市である東京と紛らわしいことから、ホストシティタウン構想という名称について仮称とされておりましたが、ホストタウン構想という名称に決定されております。今後は、ホストタウンとの名称になりますことを申し添えます。

以上で、調査事件に関する説明を終わります。

続きまして、ラグビーワールドカップ2015イングランド大会視察報告関係について御説明いたします。

別添資料2が、お手元にあるかと思いません。

視察は、9月17日から11月2日まで、4班に分けて実施しました。

視察都市は11都市で大会が開催され、その11都市のうちの6都市を視察いたしております。

3ページです。

ラグビーワールドカップは、世界3大スポーツ大会の1つと言われております。

お手元の資料は、今、両側のスクリーンで映しております。

左側の観戦者数のグラフのとおり、観戦者数では3番目を記録しております。テレビ放送も、世界207の国と地域で放送され、約42億人が視聴しております。

6ページです。

視察を行ったイングランド大会の概要について御説明いたします。

イングランド大会は、第8回目のワールドカップとなります。参加20チームにより48試合が開催され、今回のチケット販売数は247万枚、海外からの渡航者数は、46万人となっております。これまでで最も成功した大会と言われております。

7ページです。

ラグビーワールドカップの試合の категорияと、categoryごとに求められるスタジアムの要件について御説明いたします。

まず、一番上の点線の枠内をごらんください。

ラグビーワールドカップの主催者であるワールドラグビーにより、過去の成績がよい強豪国から、第1層、第2層と階層を設けております。

点線枠の下、真ん中ほどに、現時点での第1層に属するチーム、10チームを記載しております。この第1層のチームとの対戦により、ラグビーワールドカップの試合はcategory分けをされております。二重線の枠内のとおり、category AからCまでの3つに区分されております。

大会は、決勝ラウンドと第1リーグのプール戦に分けられておりますが、categoryはプール戦の対戦者に適用され、スタジアムの収容人数等の目安が示されております。

ページ下の、スタジアムの要件をごらんください。

category Aは、収容人数が4万人以上です。資料の、来場するメディア関係者の目安のところのペン記者、フォトグラファーの数字がありますけど、この単位は人数でございます。

category Aは、メディア関係者のペン記者が250人、フォトグラファーが100人、後ほど説明いたしますホスピタリティ施設と呼ばれる飲食スペースの収容人数が4,000人となっております。

category B、Cについても、表に記載のと通りの要件が求められております。

8ページです。

イングランド大会の開催都市11都市と、スタジアム13会場の一覧です。この表は、おおむね収容人数が多い順に上から並んでおります。

表頭の子選試合数と試合categoryの欄を

ごらんください。

この表で見ますと、カテゴリーAは、マンチェスターのエティハドスタジアム、収容人数が上から4番目、4万7,800人以上で開催されております。

また、カテゴリーCのみが開催された会場はなく、収容人数が1万2,300人と一番少ないエクセターのサンディーパークにおいても、カテゴリーBの1試合を含め合計3試合が開催されております。

このとおり、収容人数のみでカテゴリー別の試合が単純に決定していくわけではないと思われま

す。

9ページです。
イングランド大会の開催都市を地図で見たものですが、開催都市名を赤丸で囲んだ都市が今回視察を行った都市です。ニューキャッスル、リーズ、グロスター、カーディフ、ロンドン、ブライトン、この6都市でございます。

10ページです。

今回の視察は、今後の計画、準備などに役立てることを目的といたしますので、大きくスタジアムと開催都市といった項目につきまして、重点的に視察を行っております。

スタジアムでは、会場の設備、諸室、会場警備、物販施設などを見ております。

開催都市では、都市装飾、ファンゾーン、ボランティア、交通輸送などを確認いたしております。

なお、聞きなれない言葉としてファンゾーンというものがございます。ファンゾーンとは、スタジアムの近くや街中で入場券を持ってないファンの方々も、飲食をしながらパブリックビューイングなどで大会を楽しめる広場のことでございます。

11ページです。

ここから、視察都市と都市装飾を御説明いたします。

まず、この地図はブライトンです。ロンド

ンから電車で1時間程度の、海辺のリゾート都市でございます。御存じのとおり、日本が南アフリカを破った、歴史的な勝利を奪った会場地でございます。

先ほど説明いたしましたファンゾーンが右下の海岸沿いに、駅が左上にございます。ピンクの点線が観客の導線です。駅からファンゾーンまでの約2キロの導線上に、都市装飾やボランティアが配置されておりました。

なお、ブライトンのスタジアムは右上の広域図の中にありますように、ブライトンの市街地から郊外に約10キロメートル離れたところにございました。

12ページです。

ブライトンの都市装飾になります。

左上の写真が、駅の構内の装飾です。三角旗で装飾されておりました。

右上の写真が、街中のバナーになります。右下のバナーのアップの写真をごらんいただくと、下3分の1ほどにラグビーワールドカップのワールドワイドスポンサーの広告入りとなっております。

中央下の写真は、日本の試合が開催されることから、公式イベントとは別に日本フェスティバルが開催されておりました。

左下の写真は、大会の関連イベントとして、街中におけるライブの様子です。

このように開催都市はさまざまな関連イベントを開催し、ワールドカップの盛り上げを行っております。

13ページです。

カーディフという都市の地図になります。

カーディフは、今回唯一イングランド以外のウェールズという国での開催都市になります。

カーディフでは街中にスタジアムがあり、そのすぐ北側にファンゾーンが設置されておりました。また、地図の下のほうと右側に駅がありますが、ピンクの点線である観客導線を見ると、駅などの交通結節点とスタジア

ム、ファンゾーンなどの繁華街を結んでいるのがわかります。

なお、中央上の緑色の一帯はカーディフ城です。街は、このカーディフ城を囲むように都市が形成されており、街の雰囲気は熊本市と非常に似ておりました。

14ページです。

カーディフの都市装飾です。左側の上下の写真は街中の旗やバナーで、出場国全ての旗が掲げられていました。

右上の写真は駅の構内で、改札口のゲートに装飾が施されていました。

中央下と右下の写真は、道路上の電話ボックスやベンチの装飾です。

15ページです。

カーディフ城には、その城壁に強大なラグビーボールが打ち込まれていました。城壁の高さは約10メートル、巨大なラグビーボールは約5メートルの大きさで、この装飾は多くの観光客の話題のスポットとなっております。

16ページです。

ロンドンの地図になります。ロンドンでは3会場で試合が開催され、中でも一番左のトゥッケナムスタジアムは、ラグビーの聖地として開幕戦と決勝戦が行われました。

17ページです。

ロンドンの都市装飾になります。左上の写真が、ロンドンのヒースロー空港に飾られた巨大なラグビーボールです。

左下の写真のように、駅構内にも装飾が施され、中央上や右上、右下の写真のように、ロンドンの街中でも他の都市と同じような都市装飾が見られました。

印象的なのは、中央とその下の写真のとおり、ロンドンの駅においてカーディフの宣伝がラグビーワールドカップの装飾とともに行われておりました。

このように、開催都市間で連携した取り組みが行われておりました。

18ページです。

ここから、ファンゾーンについて御説明いたします。

上の写真をごらんください。右奥の写真が昔の埠頭で今は遊園地となっており、この都市のシンボルとされております。

ブライトンのファンゾーンは、この都市のシンボルである埠頭そばの海岸に設置されておりました。このファンゾーンは長さ185メートル、幅30メートルで、8,000人のファンが収容可能です。このように、ファンゾーンはその都市のシンボリックな場所に設置されております。

左下の写真をごらんください。写真ではわかりにくいかもしれませんが、ファンゾーンの中にはパブリックビューイングのための巨大なスクリーンやたくさんの飲食ブースが設置されておりました。

右下の写真は、ファンゾーンのそばに設置されたラグビーの体験ができる遊具で、ファンゾーンとともに大会を盛り上げております。

19ページをお願いいたします。

日本がアメリカに勝ちました、グロスターという都市のファンゾーンです。グロスターは、イングランドの最も内陸にある港町として知られております。ファンゾーンは街のシンボルであるドッグに設置され、3,000人が収容可能です。なお、ブライトンと同様に、ラグビー体験施設なども設置されておりました。

右上の写真は、日本のイベント会場では見られない立派な仮設トイレでございます。中では、温水が出ておりました。

右下の写真が、ファンゾーンの中で上下可動式の仮設大型ビジョンが設置され、ファンは人工芝の広場でパブリックビューイングなどを楽しんでおりました。

ビジョン両脇の白いテントですが、本来ならばテントにはスポンサー名が入ります。し

かしながら、グロスターの地元の食材を販売するために、イングランド大会の組織委員会との話し合いにより、スポンサー名を消すことで出展したとのことでした。

20ページです。

リーズのファンゾーンで、4,000人が収容可能です。

左上の写真は、パブリックビューイングの様子です。

左下の写真のように、電動車椅子の方も安心してファンゾーンの中でパブリックビューイングを楽しんでいました。

右上の写真は、仮設の移動式医務室、右下の写真は救急車です。

このように、ファンゾーンでも医療、救急体制は十分整えられていました。

中央下の写真のように、パブリックビューイングの会場にも多くの警備員が配置され、一人一人手荷物検査の厳重な警備を行っていました。

21ページです。

ロンドンのトゥイッケナムスタジアム近郊のリッチモンドにあるファンゾーンです。ここは1万人収容可能なファンゾーンで、中央の写真のとおり5,000人の観客が収容できる巨大なテントが設置されていました。

左上の写真は、決勝戦のパブリックビューイングの様子です。観客で埋め尽くされています。

22ページです。

ここからは、ボランティアについて説明いたします。

ボランティアの方たちは、皆おそろいの青い服に黄色の帽子をかぶっていました。ボランティアは、道案内を行うもの、盛り上げを行うものと、2種類見られています。

左上、右上、右下の写真は、道案内のボランティアです。

中央下と左下の写真は、盛り上げボランティアです。ここでは、ファンに優勝カップを

持ってもらっているような写真を撮るなど、観客の記念に残る活動を行い、ワールドカップを盛り上げていました。このようなボランティアが、観客導線上には数多く配置されておりました。

23ページです。

ニューキャッスルのボランティアです。ブライトンと同様の活動が見られておりました。

24ページです。

ここからは、シャトルバスについて御説明いたします。

まず、スタジアムへのマイカーの乗り入れは規制されておりました。

このブライトンでは、スタジアムは郊外にあり、ファンゾーンから20分程度の距離をシャトルバスで観客を輸送しておりました。シャトルバスは、試合開始の3時間前から運行を開始し、右上の写真のように運行開始時にはファンゾーンで待ちわびた観客がシャトルバス乗り場に並んで、到着を待っていました。

なお、右下の写真はシャトルバスのチケットですが、ブライトンのシャトルバスは有料となっております。

25ページです。

リーズのシャトルバスになります。

リーズのスタジアムは郊外にありまして、左下の写真のように2階建てのシャトルバスが観客をスタジアムまで輸送しておりました。

リーズのシャトルバスの運行も試合開始の3時間前からでしたが、右の写真のように運行開始時には、100メートルほど先の橋で折り返しで連なるほどの長い行列ができておりました。

なお、シャトルバスの台数は十分確保されており、待ち時間が少なく乗車できております。

シャトルバスの運転手の中には、スタジア

ムへの道を迷う者がいたと、今報告を受けております。ただの業務を含めまして、スタッフへの十分な訓練、テストが必要となるといえます。

26ページです。

ブライトンでは、郊外の競馬場を借り上げ、パーク&ライドに活用していました。左上の写真のようなパーク&ライドの看板が掲示されておりました。

27ページです。

ここからは、スタジアムについて御説明いたします。

これは、ブライトンコミュニティスタジアムの写真です。このスタジアムは、本来ネーミングライツでアメックススタジアムという名称でございますが、大会期間中はスポンサーの関係から、上の2つの写真のようにネーミングライツ等制限されておりまして、アメックススタジアムの全ての看板はラグビーワールドカップの装飾でマスキングされておりました。

下の写真はスタジアムの中ですが、ラグビー独特の慣習としまして、スタンドにはホーム、アウェイの区別がなく、出場両国のファンが入り乱れまして試合を楽しんでおりました。

28ページです。

グロスターのキングスホルムスタジアムの図面です。スタジアムは、まん中の黄色い部分でございますが、警備エリアは外側の赤い線の部分までとなっております。警備エリアの延長は約2キロにも上り、その中には海外メディアのプレスルーム、医務室などが仮設で設置されておりました。収容人数1万6,000人程度のキングスホルムスタジアムでさえ、警備エリアは約2キロにも上るため、大きなスタジアムの警備エリアは広大なものとなります。

29ページです。

キングスホルムスタジアムの写真です。左

上の写真のように、外壁にも巨大な装飾が施されています。キングスホルムスタジアムは、かつてはイングランドラグビーチームのホームスタジアムだったという歴史あるスタジアムで非常に古く、中央上の写真のように立ち見席までございました。

左下と中央下の写真のように、スタジアムにはたくさんのバーや飲食物の販売店があり、観客はここでビールや食べ物を買って、飲食をしながら試合観戦を楽しみました。

30ページです。

キングスホルムスタジアムの架設部です。

左上と右上の写真がメディアブースになります。

中央下の写真が、メディアブースに飲食物を提供するためのケータリングスペースです。

右下の写真は最先端の通信ケーブルですが、古いスタジアムで配線をするスペースが考慮されておらず、地面にはわせた配線にこのようなカバーをかけて対応していました。

左下の写真は、先ほど述べた警備エリアの外壁です。高さ約2メートル、延長約2キロの壁にも装飾が施されておりました。

31ページです。

ニューキャッスルのセントジェームスタジアムの写真です。左上が放送ブースで、中央上、右上の写真のように最新の放送設備が備えられていました。

左下の写真は、スタンド上部にたくさんのテレビカメラが並んでいる様子です。

右下の写真は、後ほど説明するホスピタリティスペースと呼ばれる、スタジアム内で飲食を楽しみながら試合観戦を楽しめる部屋になります。

32ページをお願いいたします。

ロンドンのトゥイッケナムスタジアムの写真です。右上に、普段使用する緑色のゲートがありますが、ラグビーワールドカップではこのゲートは使わず、広大な警備エリアの外

に、中央下の写真のような仮設の電磁読取機つきゲートを4カ所整備して、観客を入場させていました。

33ページです。

ここからは、ホスピタリティスペースについて御説明いたします。このスペースは、飲食を楽しみながら試合観戦を楽しめる部屋となっています。これはブライトンコミュニティスタジアムのもので、上の写真のようにさながら結婚式場のような雰囲気の中で、この部屋の奥に見える窓の向こうは、スタジアムの観客席となっております。この部屋は400人収容です。

また、左下の写真のように10名程度が収容できる個室が数部屋用意されておりました。

34ページです。

リーズのエランドロードスタジアムのホスピタリティスペースになります。

スタジアムとは別の横の建物の中に設置された飲食スペースで、飲食をしながらたくさん設置されましたスクリーンでパブリックビューイングを楽しめるスペースとなっていました。なお、こちらはビューッフェ形式のカジュアルなものとなっています。このようなラウンジを設置するためには、電気、ガス、水道はもちろん厨房も必要となります。

35ページです。

ここからは、ブライトンコミュニティスタジアムの中になります。上の写真は、左が日本代表チームの更衣室、右が南アフリカ代表チームの更衣室になります。

この日は、日本対南アフリカの試合前日で、試合終了後には1晩で、その次の日に行われますサモア対アメリカのチームの装飾に変えるとのことでした。

下は、スタジアム内の廊下になります。廊下の壁まで装飾が施されていますが、これはスポンサー以外の企業の広告をマスキングする意味もございます。

36ページです。

ブライトンコミュニティスタジアムのチーム更衣室の写真です。上の写真がロッカールーム、中央下の写真がロッカールーム用のケータリング、左下の写真のように、仮設のモニターやカメラも設置されていました。

右下の写真はアイスバスというもので、体を激しくぶつけ合った選手たちが、氷水に浸かって体を冷やすための大きな水風呂です。

37ページです。

グロスターのキングスホルムスタジアム内の医務室やドーピングコントロールルームの写真です。左上の写真のように医務室にはベッドが、中央下の写真では会場の様子を見るモニターもございます。

右下の写真は、ドーピングコントロール室のトイレで、ここでドーピング検査のための採尿を行います。

右上の写真のように、これらはいずれも仮設で設置されておりました。

38ページです。

ブライトンコミュニティスタジアムのメディアセンターの写真です。約3万人収容のブライトンコミュニティスタジアムで、メディアの関係者が100名から200名収容できる広さとなっていました。

39ページです。

同じくブライトンコミュニティスタジアムの警備エリアの中にあるテレビコンパウンドです。上の写真のように、パラボラアンテナをつけた国際中継を行う車両がたくさん並んでおり、下の写真のように車両の中には最新の放送設備が多く積載されていました。800平米から1,200平米という、広大なスペースが必要となります。

40ページです。

視察団が宿泊しましたホテルに、サモア代表が滞在していましたので、チームが滞在するホテルの部屋として撮影してきました。

左上の写真のように、部屋の中には大きなベッドが2つありました。中央下の写真のよ

うに、Wi-Fiの設備が完備されておりました。

チームホテルも30平米以上のツインが20室以上、20平米以上のシングルが30室以上、Wi-Fiが利用可能などとといった、さまざまな要件がございます。

41ページをお願いいたします。

ここからは、チームキャンプ地の写真になります。チームキャンプ地は、大会期間中にチームが滞在してトレーニングを行う場所で、イングランド大会では大学が多く使われているとのことでした。これらの写真は、グロスター郊外のハートプユリイ大学というところです。チームキャンプ地にも、ラグビーワールドカップの装飾が施されています。

42ページです。

同じく、チームキャンプ地のハートプユリイ大学です。左上の写真の仮設やぐらはビデオ撮影用で、チーム練習をここから撮影するというので、このピッチには2台の仮設やぐらが設置されていました。

右上の写真の練習用備品は、イングランド大会の組織委員会が準備したとのことでした。また、下の写真のように、トレーニングルームやシャワーも完備されています。

43ページです。

こちらも、同じハートプユリイ大学です。左上の写真のアイスバスや右上の写真の体育館、下の写真のロッカールームも完備されておりました。

44ページです。

イングランド大会視察を終えまして総括いたしますと、次の5つのことが言えるかと思えます。

まず、ラグビーワールドカップに求められる基準についてです。

1点目に、選手が世界最高のパフォーマンスを発揮できる環境が上げられます。

スタジアム、練習会場、トレーニング施

設、医療体制、チームキャンプ地、会議室、ホテルルーム等々でございます。そういった環境が求められ、整える必要があるかと思えます。

2点目に、観客が世界最高のパフォーマンスを楽しめる環境です。そのために、宿泊・輸送、救護、スタジアム内のレストラン、ラウンジ、バー、屋外の物販、アミューズメント、トイレ等々、ホームとアウェイが一緒になって応援するスタジアムの整備が必要となります。

3点目に、ファンが街中でもワールドカップを満喫できる環境です。ファンゾーン、都市装飾、スポーツ・文化・芸術のイベント、年齢・性別を問わない多種多様なボランティアです。

45ページですが、4点目に、世界中へワールドカップの迫力と感動を伝える環境です。記者席、プレスセンター、メディアサービス、最先端の通信サービス施設などがございます。

5点目に、最後ですが、スポンサー企業によるワールドカップラグビー向上に協力する環境がございます。これにつきましては、ワールドカップはスポンサー企業を活用して、またスポンサー企業はワールドカップを活用して、それぞれのブランド価値を高める活動を行っています。このため、ワールドカップと企業のブランド力向上を目指した活動を支援することが求められます。なお、スポンサー企業がワールドカップをPRすることで、開催都市のPRにも結びついてきます。

参考までに、イングランド大会でのワールドワイドスポンサーは、米印に記載していますが、いずれも国際的に有名な大企業です。

46ページです。

ここで使っています写真は、9月19日に行われた日本対南アフリカの試合終了後に、日本代表が観客席のファンに挨拶をしているときの写真です。

このときは、南アフリカのファンを初め観客の皆さんが、日本の勝利を祝福してくれたのが非常に印象的でした。

最後に、ラグビーワールドカップ開催という、熊本を世界に発信するチャンスを最大限に活用するためには、熊本での開催が高い評価を得て県民の誇りとなるよう、これらの基準を高いレベルでクリアすることが必要ということ、まとめの言葉として述べさせていただきます。

以上で、御説明を終わりたいと思います。御審議のほど、よろしく願いいたします。

○溝口幸治委員長 ありがとうございます。

以上で説明が終わりましたので、質疑に入ります。

まず、2019女子ハンドボール世界選手権熊本開催に関する件について、何かございませんか。ハンドボールは、いいですか。

○早田順一委員 この間、山鹿市と熊本市で女子の代表選手の合宿が行われましたけども、どうでしたか、要は選手の熊本に対する何か意見とか、よかったとか、こういうところを改善したらいいんじゃないとか、何かそういう話し合いとかそういうのはあったんでしょうか。

○満原観光課長 直接にお話を聞く場面はございませんでしたが、練習試合等も十分取れて、施設的には満足いただけるものになったというふうに聞いております。

また、山鹿市というところは温泉地であったりしますので、環境としてオムロンという企業の、ハンドボールを一生懸命やっている企業の地でありますので、市民の協力、盛り上がり等もありましたし、それからハンドボール協会も非常に協力的に行ってくださいました。その辺で高い評価を得たというふうに

思っております。

○早田順一委員 ありがとうございます。

○溝口幸治委員長 ハンドボールについて、ありませんか。

なければ、先に東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する件について質疑を受けたいと思います。東京オリンピック・パラリンピックについて、何かございませんか。今、説明された内容について。その他は、またその他で取ります。

東京オリンピック・パラリンピックについて、何かございませんか。

○荒木章博委員 インドネシアのバドミントンの誘致ということで、知事が3本柱の1つとしてこのキャンプ地誘致ということと、アジアを含めた交流ということで力を入れてやられておるけれども、その後のバドミントンに対するキャンプ地に向けての動き、そこあたりの感触を含めてお尋ねしたいと思います。

○満原観光課長 バドミントンにつきまして、6月に知事のトップセールスという形で、向こうのバドミントン協会の会長とお会いしたところでございます。

ただ、その後、例えば日本で行われましたバドミントンの大会、国際大会等におきまして、県のバドミントン協会のほうからいろいろなお話をしたいとかいうのがあっております。

今はまだ決定ではございませんけども、年が明けました1月30、31日におきまして日本リーグの試合がございますが、そのときにインドネシアの留学生等々の交流を行うことが今計画されておりますが、そういった交流等を積み重ねて実績をつくっていかねばいけないというふうに考えております。

○荒木章博委員 御存じのとおり秋田県が、先に県知事が行かれたりして、あそこの百十四銀行の指導者がインドネシア人であり非常にインドネシアとのパイプが大きいということで、非常に、秋田県は3年に及ぶキャンプ誘致をやっているわけですよ。非常に僕は、正直言って無理する事業だったと思うんですよ、このバドミントンにおいては。しかし、それを巻き返すには、神奈川県もいるわけですが、巻き返す事業には、ただ再春館のオープンの大会があるから、インドネシアの青年と交流をやる。そういうふうにして実績をつくるということだけではなくて、実際キャンプ地に向けたどういう対策をとるかということがなければ、絵に描いた餅ですよ、これは。70人も80人も行って、ここに書いてあるようにスリアワン洋子さん、その人が窓口になって、熊本によく来ておられるわけですが、やっぱそういったことの、きちんとした対応の仕方というのは、どういうふうを考えられますか。

○満原観光課長 キャンプ誘致につきましては、いろんな方面からやり方があるかと思えますし、それは国によっても多くのチャンネルがあったほうがいいのは間違いないと思っています。

オリンピック・パラリンピックの組織委員会におきまして、ホームページで施設会場等を出すとといったこと、例えば千葉県におきましてもホームページ等で施設を全世界に発信して、それを視察の受け入れをしながら決めていったという経緯もあつたりとか、あるいはいろんなキーパーソンというのが競技によってあるかと思えますので、それを探してやっていくというやり方。それから熊本県をPRする手段としまして、交流というものがあつたりしますので、これは自治体とそれから競技団体、そういったところと連携を強めま

してやっていかなければいけないというふうに考えております。

○荒木章博委員 まあインドネシアは、森会長は西山中学校の卒業生であり同窓会長で、蒲島知事の奥さんも西山中学校の出身で、この前、蒲島知事の奥さんが講演をされたけれども、僕は非常に感動的だったと思うんですよ。

だから、そういう中でインドネシアとの急遽沸いたような対策なんですよ。だから、それはそれとして、どうしたものを確実につかんでいくかということは、やっぱりどういう、やっぱりこれは観光局長いかがですか。きちんとしたその後のフォローですよ、その後のフォロー。その後インドネシアに、おたくはこの間パリに行つたけども、インドネシアのこれだけ大量で100人近く行って、向こうでスリアワン洋子さんから全部招待を受けているわけだから、県職員はお金払っているようですよ。そういう交流をやって、その報告書あたりを私、提出してくれと言ったら、報告書は提出はいただきましたよ。こうやって、それだけの予算を使っておるならば、きちんとした報告書をつくるべきじゃないですか、キャンプ誘致の。できてないじゃないですか。できてますか。

○小原観光経済交流局長 前回のインドネシアの訪問につきましては、インドネシアとの交流も含めて、そのうちの1つの大きな目的がキャンプ、バドミントンということで訪問させていただきました。委員がおっしゃられたように、今後もキャンプの誘致に関しては市町村と競技団体と一緒に連携して進めていくわけですが、当然全てがうまくいくということにはならないと思っております。ただ、最大限の努力はします。

もし、そのキャンプ地誘致がうまくいかなかった場合、当然それにかけた費用それから

時間、そういったものに関してマイナス面も出てきますが、そういったものを通してでもそのキャンプ地を誘致をするというその活動が、後に何が残るのかと。例えば、今度のバドミントンもちろん最後まで全力を尽くして競技団体とやりますけども、その間インドネシアとの交流とかバドミンントンの交流、青少年との交流、そういったものをきっちりした形で残していきたい、そういう形で考えてございます。

○荒木章博委員 それはね、観光の話じゃない。やっぱり1つのキャンプ地を誘致をしようと、目的なら最後まで達成するようにどうしたらいいだろうかということ、僕は言っているわけですよ。

だから私が要望したいのは、やっぱりきちんとした組織をつくってですよ。ベルギーを熊本キャンプ誘致しましたでしょう、サッカーのベルギーを。そういうように予算化を組み立てて、例えば県のバドミントン協会あたりと再度また交渉しに行ったりとか、そういうことはないのかということ、私は言っているわけです。結果だめだったらどうのこうのなんて僕は言ってないんですよ。今ごろ、だめだったなんという言葉は聞きたくないんですよ、僕は。やるために、どうすることをやられるかということ、僕は言うわけですよ。

だから、余り唐突に知事が動かされたから、担当部局は困っておるんですよ、実際言うて。だから、バドミントン協会は、きのう会長と理事長と食事会しましたけど、ぜひ会いたいということで。6月1日に、あなたたちのほうが持って行ってたではないですか、話を。だから、そこから先は、県バドミントン協会は、バドミントン愛好者は、やっぱり県が今後どういう動きをされるのかということに注目をしていると思うんですけどね。だから実際キャンプ地を本当に取ろうと、こ

のように3つの項目の1つとしてやるならば、きちんとした対策はどうされるのかということ、僕は聞きたいんですよ、僕は。だめだったときはとかいう話じゃなくて、今の時点ではどうしても取れるように努力をするということでしょう。施策はないんですか。委員長お願いします。

○満原観光課長 現時点で今考えておりますのは、国のラグビー協会等々のつき合いの中で、有力者と思われる方もいろいろ情報交換をいたしておりますので、その情報交換を含めたところでやっていかぬなとは思っております。

ただ、やはり自治体と協議会とも連携を強力にしながら、丁寧な対応を積み重ねていくということ、私どもはやっていこうと思っております。

○溝口幸治委員長 そのラグビー関係者の方からも。

○満原観光課長 失礼しました、バドミントンです。

○荒木章博委員 だから、いいんですよ。やっぱり目的に向かってきちんとしたものを、報告をしながら、こっちから、どういう人と会って、どういうふうにしたんですかと報告書を持ってきて、写真を撮ったのが、知事と写真を、向こうの会長を撮ったのを持ってきて説明するようなことじゃなくて、やっぱりきちんと委員には説明するべきじゃないですか、活動については、さっきのラグビーのように。堂々といいじゃないですか。だから、要するに知事の重要政策費を使って行っているわけで、その中には。アジアの戦略としては、百何十万しかついてないんですよ。だから、知事の重要政策の2,000万の中から、それは急遽使っているわけでしょう、目的が。

だから、ちぐはぐにならないようにやってほしいということなんです。一つ一つの確に、次の段階としてはこうする、次の段階ではこう。いや、わかりますよ。ラグビー合せてハンドボール、これはもう本会議場でも誰か質問して、このままではだめだと、もう少し組織をつくって対応すべきだと言うことで。観光課だけでは、それは無理ですよ。各課の連携をとりながらやらないと、それはもうパンク状態ですよ。だから、せっかくこれだけバドミントン愛好者とか、県にインドネシアから来るんだと、世界最高峰のインドネシアが来るんだという夢を与えているんだから、だめだったらなんて、こんなときに言うべき問題じゃない。どうやって進んでいくか、秋田に勝っていくか、そのことを、もう幾ら聞いてもわからぬから、それを要望します。

○溝口幸治委員長 オリンピック・パラリンピックに関する件、何かございませんか。

○田代国広副委員長 先般、東京のほうに私視察に行ったんですけど、あのおとき誘致のことで各都道府県、26都道だったですかね、何百という要望が上がっていると聞いたんですけども、本県からも複数の自治体が手を挙げておるといいますか、希望しておると聞いているんですけど、その実態について県は把握されておりますですか。

○満原観光課長 本県においては、まず最初にことし前半におきましてキャンプ誘致について要望調査を行いまして、18の自治体が手を挙げているという状況で、その中には独自に動きをいたしているところもありまして、自分たちがターゲットとしている競技につきまして国の委員会等に働きかけを行っているということの情報は、きちっと把握しております。

○田代国広副委員長 かなり激しい誘致合戦になるのはもう必定ですけれども、できれば県内にもどこかの1つか2つでも自治体がキャンプ誘致できるように、県としても積極的な支援と申しますか情報提供といえますか、お願いしておきたいと思います。

○溝口幸治委員長 引き続き、オリンピック・パラリンピックについて質疑はありませんか。

○氷室雄一郎委員 今お話がありました、この前回の18の市町村から上がってきておるわけですが、今おっしゃったように具体的にどういう市町村がどういうアクションを起こしているのかというのは、どこかで一遍ある程度お示し願って、例えばバドミントンであればバドミントンを誘致するような各市町村が県内にあるのかどうかという、熊本だけなんです。

○満原観光課長 熊本市以外も当然ございます。競争の部分があったりして、なかなか名前を上げてくれないところもございます。

ただ、有力なところとしましては、例えば菊池市が斑蛇口湖のボートがございまして、これはジュニアの日本大会等を開催して、非常に熱心にされているところもございまして、それは、日本全国有数の施設でございまして、非常に有利性をもっているというところで手を挙げているところです。

それ以外のところも非常に熱心にやっつけらっしゃるんですけど、なかなかそこが競争の部分がありまして、その辺で少し、まだ名前を出さないというところでございます。

○氷室雄一郎委員 わかりました。各市町村で一生懸命取り組んでおられるというのは今ちょっとわかったんですけど、その各市町村

だけでは限界がございますので、それは県としっかり連携を取って、県のできるところはフォローしていかんと、各市町村も悩んでおられることがあると思いますので、それをしっかりお願いしたいと思います。

○満原観光課長 今、委員がおっしゃいましたように、やはり情報というものが非常に大事になってくるかと思えます。当然、受け入れをする自治体、それから競技団体が熱心に行っているところにつきましても、私たちも積極的に情報を提供しながら、一緒になってやっていこうというふうに思っております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。
なければ、ラグビーワールドカップ2019熊本開催に関する件、それから先ほどの視察報告に関する件の質疑を受けたいと思えます。質疑ございませんか。

○荒木章博委員 この視察は、もちろん議員も代表で数名行かれましたけど、県の執行部も何人か行かれましたけど、県警のほうは何人ぐらい行かれたんですかね。

○満原観光課長 県警のほうは、視察に参加されておりません。
私どものほうで、実はまず大会組織委員会のほうが窓口になっていただいたわけですけども、警備の部分につきましては見せていただくことができませんので、その辺については最初からちょっと考慮いたしております。

○荒木章博委員 いや、それはわかるんですよ。警備のほうは見せていただけなくても、スタジアムの中のいろんな全体のバランスとか、そういうところあたりは、やっぱり県警あたりでも数名でも視察に今後やっぱり行って

いただいて、やっぱりこう取り組むべきではないかと私は思いますね。それは、もう要望ですから。やっぱり、そういう安全面とか、その視察でいろいろ見るのももちろん当然ですけども、運営もそうですけども、4年後のことですけどもね、やっぱり今後ですよ。そういう警備あたりも全体的な枠の中で、その警備を見せる見せないんだと、やっぱり交通の警備とかいろんなこともかみ合わせて、それはお互い能力を分かち合わなければ、うまくいかないと思いますね。ぜひ、それは県警のほうも参加を、ぜひ手を挙げていただいて、そしてやっぱり県警からも数名、そういういろんなテロ対策とか交通対策とか、そういう人たちもやっぱり同行されるのが私は本当じゃないかなと思います。

以上です。要望です。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○早田順一委員 視察に行かれて、熊本市では、うまかなよかなスタジアムで開催されるということで、3万2,000人。先ほどの説明で、近いのはキングパワースタジアムですかね。それが近いというふうに思えます。それとファンゾーンですね、ファンゾーンのパターンがいろいろ11カ所ありますけども、熊本市で開催した場合に、どのパターンが一番条件的にマッチしているのか、その点と、それと3万2,000人の規模で受け入れをした場合に動員数ですね、動員数、スタッフがお手伝いする側の動員数が大体延べでどれぐらい必要で、ボランティアの方がそのうちどれぐらい必要なのか。それと言葉の壁ですね、言葉の壁。行かれて、例えば全部英語だったのか、あるいは中には日本語とかほかの言葉をしゃべる人もいたのか、それをちょっとお尋ねしたいんですけど。

○満原観光課長 まずファンゾーン等につき

ましては、パターンとしましては、例えば先ほどカーディフのことを御説明いたしました。カーディフ城という都市のシンボルのところが、そこを中心にいましたので、例えばそれからリーズとかグロスターにつきましても、その都市のシンボリックなところにファンゾーンを設けられておりました。

熊本におきましては、やはり熊本城が1つのシンボルでございます。うまかなよかなスタジアムまでの距離とかいろんな輸送を今後考えるにしても、そういった熊本城周辺のシンボリックなところを利用するのが一番パターンとしては合っているのかもしれませんが、ただファンを楽しませるといふそのファンゾーンの目的とともに、それから多くの方を輸送する際にはどういったパターンがいいか、途中でファンゾーンを設けるとかいろんなファンゾーンの役割もございまして、その辺も含めて場所等を検討しなければいけないかと思っております。

それから、済みませんボランティアにつきましては、どのくらいのところかというのは、ちょっとまだ検討ができておりません。それは今後の、それから組織委員会等も含めてやっていかないかぬのですが、ボランティアの場合は2つパターンがございまして、イングランド組織委員会がボランティアを養成して、それを会場地に配分といいますか、した部分と、それから各開催都市で育成したボランティアと2つあったみたいです。その辺も含めまして、役割分担等を組織委員会と今後検討していく中でつくるかと思っております。

言葉ですけども、やはりイングランドでしたので英語だけでございました。多分英語だけだったと思います。そこまでしか、済みませんちょっとわかっておりません。

○溝口幸治委員長 橋口委員も行かれたので、補足があれば。委員同士ですから、わかりやすいと思っております。委員会ですから、

補足を。

○橋口海平委員 ボランティアの件に関しての、英語だけだったという話なんですけど、もう本当に、先ほど誘導するボランティア、それと場を盛り上げるボランティアというふうにあったんですが、全て英語でやって、特に場を盛り上げる方たちに関しては、もう勢いでというか、「ジャパニーズ」と言うだけでも盛り上がって、一緒に万歳したりとか、そういうものやったりして、誰でもできるボランティアじゃないかなという気はして、日本語でも大丈夫じゃないかなと、その部分に関してはですね。

ただ、道誘導なんかに関しては、少しは、どの国が来るかというのはまだわかってないんですが、英語だったり、ヨーロッパのほうの言語が少しは必要じゃないかなという気はしております。

○早田順一委員 ボディーランゲージでもいいボランティアの人と、しっかり英語をしゃべる人ですね。だから、その英語をきちんとある程度しゃべれる人が大体何人ぐらい必要なかというのを早く把握して、そういうボランティアを育成していかないと間に合わないような気がいたしますので、その辺は早めに把握をぜひしていただきたいと思っております。

○溝口幸治委員長 ほかにございせんか。

○藤川隆夫委員 今の早田委員のと少し重複する部分はあるかと思っておりますけど、今回イングランド大会視察を終えられて、まとめが出ております。さまざまな環境の整備をしなければいけない。当然ホテルを含めて練習会場を含めて、さまざまなものをやっていかなければいけない。その中で、現状において熊本で一体何%ぐらいこれは、現状において何%ぐらいは現状でも大丈夫なのか、あるいはこ

れから積み上げていかなければいけないじゃないですか。その中でタイムスケジュールというのが恐らく必要になってくると思うんですよね。これを一つ一つ全部つぶしていかなければいけないと思うんですよ。そのためのスケジュールというのは、もう既にできているのか、これから当然、組織委員会で新たにつくらなければいけないだろうと思うんですけど、その付近の話をちょっと聞かせてください。

○満原観光課長 まずラグビーワールドカップにつきましては、組織委員会とそれから地元の開催都市委員会と、この2つに分けられて、組織委員会そのものは大会運営を行うところでございます。それ以外の周辺の、例えば大会運営ということであればチームの、例えば選手の宿泊、輸送それからチケット等は大会組織委員会が行うわけですが、それ以外の盛り上げ部分が熊本県等の開催都市で行います。先ほども申し上げました。多分ファンゾーンもそうだと思います。

そういったものを含めて役割分担が大体想像がつくんですが、その辺の役割分担をきちんと組織委員会とする形にいたしております。

今後のスケジュールにつきましては、そういったスタジアム等の諸室も含めて、基本的な準備等をどういうふうな形でやるかというのを、本年度中に基本計画的なものを策定しようというふうに考えております。

そういうものに即しまして、28年度以降の準備を整えていくという形をとっております。

○藤川隆夫委員 時間は余りないと思います。4年しかないんで、先ほどベッド1つ取っても、果たして熊本のホテル分だけ、どれだけ賄えるかという極めて疑問ですよね、部屋の大きさからいくと。そういうようなと

ころも全て、恐らくこれからつぶしていかなければいけない部分がたくさんあると思います。逆に言うと、施設面で言うと、今言ったホテルで選手が宿泊するところに関しては、改装までしてもらわぬといかぬような話になるかもしれませんよ、何人来るかわかんないけど。そこまで含めて、これから先あと4年しかないんで、ぜひきちっと計画を立てて、一つ一つつぶしていってもらって、ぜひ大会を成功させていただきたいと思うんで、よろしくお願いします。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○高野洋介委員 ラグビーのことで少しお尋ねと御要望をさせていただきたいと思っておりますけれども、トップリーグ見させてもらって大変お世話になりました。大変私も勉強になりました。この間の一般質問でいろいろ話をさせてもらいましたが、選手が言われたのが、メイン会場がありますよね、うまかなよかなスタジアム、メインの右に電光掲示板があったですね、国立とかそがんところは左らしかです。正面とかにもあるらしかですけど、熊本って右なんですねと言われたんですよ。恐らく2019までにはもう1つ電光掲示板か何かつくってもらえるような形にしてもらいたいという要望とかもあったんですけど、といいますのが、選手たちは常に自分の出ている電光掲示板の名前が出ると、全然モチベーションが違ったりするらしいんで、今から恐らくうまかなよかなスタジアムを改装されると思うんですけど、まず1点目の質問が、いろんな2019に向けてどういう改装の考えを持っていらっしゃるのか。それと恐らく今の観客席でベンチタイプですね。やはり日本人に合せた形にしてあると思うんですけど、恐らく外国人の方々が来られたときに、体は大きいですね。あれに入ってしまうのかなというとも、ちょっとした疑問もあるんで

すが。ほかにもですね、小さいことを言うときりがなかですけど、例えばトップリーグのときのあのポールですよ。あれって細いじゃないですか。どっちみち2019までには変えなんとは思いますが、どうせ変えるんなら早急に変えて、で、来年もトップリーグ来るわけですから、毎年毎年トップリーグは来ますよね。だから毎年毎年、予行練習はできるわけですよ。だから、できる範囲からでも構いませんので、そうやって一つ一つ施設面を改装していくというようなイメージがあるのかなのか、お尋ねしたいんですけど。

○満原観光課長 まず、電光掲示板についてでございます。組織委員会等と話をしますと、いわゆるラグビーワールドカップを開催する競技場につきましては、電光掲示板は大体2つぐらい必要ということで、場合によっては仮設等も含めて検討しなければいけないというふうに思っております。そういった、例えばロッカールーム等々諸室がいろいろ出てくるわけですが、ドーピングルームとかですね、そういった諸室の改装等々につきまして、どういう形で基本的な改装をやっていくか、あるいはどういうやり方をするかとか、どこまでやるか等の基本計画を本年度中に策定する予定でございます。現在スタンド等も含めて検討中でございまして、本年度中にはそういったものが、基本的な考えをお示しすることができるかと思えます。

ゴールポールにつきましては、確か長さもあるんで、今それは開発されているような話を聞いております、長さ等も含めてですね。そういったところの様子を見ながら、できるだけ早くできれば、確かに委員がおっしゃるように快適なというより最高のパフォーマンスを見せれる競技場としての評価が高まることは、非常にラグビーワールドカップのときの試合にも影響するかもしれませんし、その前のテストマッチ等も、日本で行われるやつ

を、いいものを持ってこれる可能性もございますので、そういったちっちゃなことも積み上げながらやっていきたいというふうに思います。

○高野洋介委員 今まで、このワールドカップとかが来んだったら、恐らくうまかなよかなスタジアムの大規模改修というのは、県としては恐らくしにくいような状況だったと思うんですが、ぜひ、このワールドカップ等々を通じて、大規模改修に向けた取り組みをさせてもらって、これからきちんとして先につながるような、そういううまかなよかなスタジアムをぜひつくっていただきますように、よろしくお願いいたします。

あと、また個別な案件はそれぞれ時期が来たらまたお話しさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○溝口幸治委員長 高野委員がおっしゃった電光掲示板2つ、今度つければよかですけど、我々が見に行ったところは1個しかなかったところがあったですよ、どこを見回しても。あれの基準ちゅうのは、何か絶対2つなければならぬと聞いたとくに、イングランドに行ったら1個しかなかところがあった。というのが1つと、座席のスペースですね。この前うまかなよかなに行かせてもらって、私もゆったり座ったんですけど、確か私たちが行ったところは、あれよりも狭かったんじゃないかなと思うんですけど、座席の基準というのは何かあつとですか。

○満原観光課長 今、委員長がおっしゃいましたように、私どもが視察に行ったときのベンチシートは非常に狭うございました。恐らく日本の来賓席と、それ以外に一般席があったわけですが、一般席と大きさは余り変わらなかったと思います。大型ビジョンに

つきましても、組織委員会から最初示されたものは非常に、2つだとか、いろんなこうというのが最初流れたんですが、視察の中では非常にそれと違う部分も見えましたし、立ち見席があるスタジアムもございました。これは今後組織委員会と意見交換する中で、それをよりよいもの、快適なものになるようにすることを決めていかぬなというふうに考えております。

○溝口幸治委員長 わかりました。

○橋口海平委員 今、高野先生が施設整備の話で、ゴールポスト、今特に必要なのがゴールポスト、世界規格が17メートルだったですかね。それとインゴールとグラウンドの周りに敷く人工芝ですね、これは必ず必要になってくると思います。今テストマッチを誘致していると思うんですが、その国からもそういうのは必要、熊本でテストマッチをするのに必要というふうに多分、日本協会のほうにもいっていると思うんで、そこは確認して、早急に対応していただきたいと思っております。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○濱田大造委員 2点ほどございまして、ちょっと細かいことなんですけど、ファンゾーンでいろんな店が出店されているということなんですけど、イメージ的にはテキ屋さんとかがいっぱいあるのかなと思うんですけど、そういうのがちょっとね。出店の基準というのはどういうふうになってたのかと、あともう1点は、テロ対策というのが予想以上に、3年後、4年後求められると思うんですけど、国によって警備員が拳銃持っていたり、いろいろ武器を持っていたりすると思うんですけど、どのくらいの警備を要求されているのかと、あと警備エリアがあって柵を設けてた映

像があったと思うんですけど、そういうのは日本でもスタジアムでずっと囲むのかどうか、ちょっとお聞かせください。

○満原観光課長 まずファンゾーンの出店の要件というのは、テキ屋さんかどうかはわかりませんが、基準的にはちょっとまだわかっておりませんが、ただ一般的にはスポンサーの企業が入るとというのが大前提でございます。例えば、ビールでいきますとハイネケンが入ってくると、それ以外は絶対使わないという形になっていたりしています。

一部テントのところに、全くそのマークが入っていない部分がありましたけど、それは地元の食材を売りたいということで、スポンサー以外の部分も入れておりましたので、そういったものでいきますと、やはりある程度公的などところで調整するという形になるかと思えます。基本はスポンサー、それ以外のところをどういうふうに持っていかというの、今後のファンゾーンに対する考え方、私たちの要望の仕方になってきて、これも地元を売るチャンスになりますので、その辺を含めて、これは熊本県のPRになるということになれば、力を入れてやっていかなければいけないというふうに思っております。

それからテロ対策については、ここはまだ私どもにはちょっと情報は入ってないんですが、警察庁のほうで来年度以降そういった対策の部屋をつくるんじゃないかと聞いております。

そういったところで今後やっていくんでしようし、それから警備ゾーン、これにつきましても国の事情によっても変わるので、ちょっと私どものほうには、その辺の情報は入っておりません。

○溝口幸治委員長 きょう県警からも御出席ですけど、恐らく国全体での対策になると思うんですけど、今の時点で何か入っている情

報があれば。

○林警務課長 現時点で全国の警察では、来年のサミットに向けた警備対策を進めているところをございまして、ワールドカップあるいはオリンピックにつきましては、今後さらに、それが過ぎた後にまた詳細な検討に入っていくかと思えます。

ただ、テロ情勢が非常に厳しくなっておりますので、警察の体制の強化でありますとか管理者対策あるいは水際対策、そういったものを一生懸命これから取り組んでいくという方向で話は聞いております。

○溝口幸治委員長 ほかにございせんか。

○荒木章博委員 これはお礼を申し上げないかんけど、先般トップリーグの試合が開催をされて、警備とか輸送とか非常に混乱するだろうということと言われておりましたけども、スムーズにいったんじゃないですかね。これはやっぱり県の協会、ラグビー協会だけではなくて、他のサッカー協会とか協力をいただいた。県のやっぱ指導のおかげで事故もなくスムーズに、やっぱラグビーでは初めてでしょうね、1万8,000なんて。サッカーではよくあるんですけど、そういった中で僕はきちんと警備上とかそういうのもできてたんじゃないかなと思ったものですから、これにはお礼を申し上げたいなと思っております。たまには、ほめることもあつとです。

以上です。

○溝口幸治委員長 貴重な御意見です。

ほかにございせんか。

○重村栄委員 6日の日だったですかね、トップリーグが来て、五郎丸人気で人が集まったんですよ。多分あれ五郎丸が来てなかったら、多分人数随分違うんじゃないかな、そ

ういう感じがするんですが、これはラグビーそのものの文化の根つき方が全然、日本と外国、特にヨーロッパは違うんですよ。イングランドは特に4カ国対抗とかずっと毎年やっているんで、もうラグビーそのものが生活の一部みたいな、そういうお国柄が根強いんですね。

そういうところと直接比較はちょっと難しいんですけど、やっぱり日本でやる以上は、県そのものがある面ではばかになって、お祭り騒ぎにしないと、しれっとしておったら多分盛り上がりだぬと思いますよ。これは、もうラグビー文化の違いですよ。ここの辺は、先ほどいろいろ委員の先生方がいろんな御意見をおっしゃって、もうごもっともなことばかりおっしゃっているんですよ。ただ、一番心配なのは、いかにばか騒ぎにするか、いかに県民全員が、やるぞと、楽しむぞという雰囲気をつくるかで、そこが鍵だろうと思うんですよ。それがなかったら多分、組み合わせ次第ではがらっとした試合になってしまう可能性だってあると思うんですよ。そこの辺をベースに考えておかないと、ワールドカップだから来るという感覚は、ちょっと心配な部分があります。ここの辺はやっぱ文化の違いです、ラグビー文化の違いです。私自身が、自分がラグビーやっていたから、よく思うんですよ。

東京だって大学ラグビーありますけど、早明戦とか早慶戦になったらわあつと来るんですよ。それ以外は、もう本当にばらばらなんです。そんな状況なので、東京でさえそういう状況だ。トップリーグもそうです。人気チームとそうじゃないチームでは、もう東京でやっても人が少ない試合なんてたくさんありますから、そこの辺はやっぱよっぽど雰囲気を盛り上げないと、本当に「ええっ」というようなことになりかねない。逆の心配をしています。もう本当にやってよかったよねという結果になってほしいので、もう県庁の

皆さん一人一人が営業マンになって、ばかになって、お祭り騒ぎをしようと、そのくらいの雰囲気楽しんで大会を迎えるようにしていただきたいと思います。

○満原観光課長 今、委員がおっしゃいましたように、スポーツに対する文化というのが、今回視察も含めまして非常に違ってたというのが、驚いたというのが正直な感想でございます。いわゆるスポーツを楽しむ、ラグビーを楽しむということが、文化として日本とヨーロッパと違うというのがわかりました。

売り上げること、機運醸成、確かに五郎丸人気があって、トップリーグは今回は朝5時半から並んでいらっしゃる方もいらしゃいましたし、トップリーグでは2番目、今季では1番目の観客動員を数えました。それは、ひいては南アフリカ戦の勝利等々の活躍があった、これを4年後につなげるためにも、いろんな部分で機運醸成を盛り上げていくということをやっつけていかなければいけないということは重々思っています。観光の面でも非常に大きなチャンスでございますので、これは熊本だけでなく九州全体も一緒になって取り組んでいく必要があるかと思っております。

○重村栄委員 ちょっとついでに言いますと、第1試合に荒尾高校出身の流君が出ているんですね。知らない人がいっぱいなんですよ。それもPRもしてないんですよ。どこかの放送局がちらっと流したぐらいなんですよ。それって、わざわざ県出身の選手がトップリーグで来ているんですよ。そういう話は誰もしない。五郎丸だけに頼ってしまっている。これが現実ですよ。だから、そんな状況だと、やっぱり私が言った心配が当たる可能性が出てくるんですよ。その辺も、ちょっとわかっておっていただきたいと思います。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○河津修司委員 ちょっと細かいことではありますが、開催時期が9月の20日からということで、ちょうど例年でしたら県民体育祭の時期、そういったものとどうするのかと、それから台風のシーズンで、これは台風対策というのもしっかり考えていないと、小さいテントなんか張っていたらどうなるのか、安全性の面からも非常に問題だろうと思っておりますが、そこ辺のところもまだ今から考えることかもしれないと思いますが、どうなっていますかね。

○平田体育保健課長 今、河津委員のほうからございました、県民体育祭もちょうど9月の中旬ぐらいのときに開催しているところでございます。期間的には、土日に開催しているところでございます。このラグビーの大会日程は早めに決まりますので、そういった日程を見ながら、またラグビーの試合の期間も結構長い期間をかけて連日あるというものではございませんので、そういった日程調整をしながらまた考えていかないといけないと思っております。

また、県民体育祭は熊本市ではございません。そのときはございませんので、そういった会場面、それから宿泊の問題も出るかもしれませんが、そういったラグビーの試合日程等を見ながらまた調整が必要かと考えております。

○溝口幸治委員長 よろしいですか。

ほかにございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 はい、なければ質疑はこれで終了いたします。

次に、閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件につきまして、審査未了のため次期定例会まで本委員会

を存続して審査する旨、議長に申し出ることとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○溝口幸治委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

その他に入りますが、何かございませんか。

○松野明美委員 6月議会のほうで、先端技術でありました熊大マグネシウムを使用しましたレース用車椅子のこともちょっと発言させていただきまして、非常に軽いなというようなことを言わせていただきました。

その陸上競技用の車椅子が11月2日、先月の2日に発売を開始になったということをお聞きしまして、そのことをお聞きしたかったものですから、車椅子の第一人者であります、マラソンで機能病院の山本先生のほうにお聞きをしましたところ、先日、熊大マグネシウムを利用しましたレース用の車椅子で、大分の国際レースに出場したということでした。自分は非常に練習不足で余り出たくなかったけれども、試しに出たところ非常にスムーズで軽かったということで、20代、30代の選手の中で61歳の自分が11位でゴールインしたということをお聞きしました。マラソン用には非常にいいということでした。

そういう話を聞きながら、やはり練習環境がとてもないということで、今は菊陽のほうの一般道路で練習をしているということでした。ただ普通の自転車よりも幅が広いので、車が多いので危ないということで、どうしても練習環境に恵まれないと。大分とか久留米であれば、そういう環境は整っているということで、できれば県の高校駅伝のコース、なんか農免道路とかあるんですかね、そのあたりをちょっと整備していただいて、まっすぐに平坦な道路の整備をしてほしいということをお聞きしました。これを言うてくれということだったので、ちょっと発言させていただ

きましたが、その整備についてどのような形で進んでいるのかなということをお聞きします。

○井上障がい者支援課長 松野委員のほうから、これは委員会の外で御要望があったんで、私どものほうで県の土木部あるいは菊陽町の福祉課、菊陽町の土木所管のところにお話をいたしました。いろいろと菊陽町内の山本さんからお聞きした練習の場所なども見て、いろいろと菊陽町のほうには提案をしたところなんです。今、菊陽町の福祉課と土木建設課のほうで検討をなさっているところだと思います。山本さんのほうからも、意見を聞きたいというふうなお話があります。ただ、通常普通の車が走る場所ですので、なかなか練習環境としては難しい面があるのかなという気はしております。

以上です。

○松野明美委員 総合運動公園の中には行けないんですかとお聞きしましたところ、あそこは自転車で通れますから。ただ曲がりくねっているんで、やはりマラソンですから真っすぐな道で練習をしないとスピードがなかなか上がらないということでした。障がい児もぜひトレーニングに参加したいという声も出ているということですので、そのあたりのほうはどうぞよろしく願いいたします。

以上になります。

○中村亮彦委員 今、菊陽町の話が出ましたので、松野先生が言われた練習されているその道路、あれ多分町道だと思うんですけど、非常に危ないんです、あそこは。長い、とにかく長い一本道なんです。しかし、そこでは高校生が夜にちょっと走ってて、車にはねられて死亡したというようなことも、1年ぐらい前だったと思いますけど、あつてます。死亡事故も特に多いような道路なんです。直

線非常に長いので、車を飛ばすんですね。だから、これは町道ですから、町とも協議しながらでも、整備ができるならというふうに思います。

以上でございます。要望でございます。

○溝口幸治委員長 ちなみに、球磨郡には自転車道というのがありまして、そこは結構、車椅子の方がトレーニングされて、まあ球磨郡遠いんであれですけど。

○松野明美委員 済みません。人吉のほうはあるということをおっしゃっていました、確か。ただ、なかなか遠いので行きにくい、毎日のことですから行けないということでした。はい、済みません。

○早田順一委員 松野さん、山鹿から上熊本へ自転車道。

○松野明美委員 そちらの自転車道のことを言われたんですけど、やはり狭いということと、農家の方の車どめですかね、車どめがありまして、これがあるので、やっぱり練習はしにくいということでした。

○溝口幸治委員長 ほかにございませんか。

○橋口海平委員 ラグビーにまた関してというか、ラグビーワールドカップとトップリーグが終わって、さまざまな課題とかが出てきたと思います。そこで、ラグビー協会との何か意見交換会とかというのも考えていただきたいと思っているのですが。

○溝口幸治委員長 それは、委員会ですね。

○橋口海平委員 委員会です。

○溝口幸治委員長 ラグビー協会の方々、そ

れぞれチャンネルでいろいろお聞きになっていると思いますが、正式に委員会とラグビー協会の皆さん方との意見交換というものを、ちょっと日程を探ってください。一番いいのは、2月議会のときに合えば一番いいんですけど、向こうも民間の方が多いでしょうから、例えば1月の後半とか、まあそこは日程調整次第でやってみて、場合によっては次の定例会の前でもですね、相手方がいることなので、もし日程が合えばそれでやってみたいというふうに思います。

ほかに。

○高野洋介委員 きょう委員会にずっと参加してたんですけど、満原課長がずうっとしゃべっているんです。最初から最後まで説明をほとんど1人でされて、答弁も1人でされていますよね。それぞれ観光課長なんですけど、ほかの業務もあるわけですよね。私ずっと見ておって大変じゃなからうかなというのが勝手な感想なんですけど、もう少しいろんな形で分けて、ハンドボールはハンドボール、2020なら2020という形で分けてしなはらんと、1人でずうっと何もかも抱え込んで説明したりするのも大変だと思うんですが、人事課さん、そこら辺、何か考えていますか。

○青木人事課長 おっしゃったとおり、今観光課の負担が大きいと認識しております。そして、この委員会付託の3つの案件がございまして、これは限られた時間で成功させる必要があるということでございますので、本日それぞれの委員の方から意見も出まして、また一般質問でも高野委員から提案いただいたところです。そのような御意見も踏まえまして、商工観光労働部と協議しながら、所要の体制確保あるいは人員の確保、それはしっかりと対応していきたいというふうに考えます。

以上です。

○溝口幸治委員長 はい。奥菌政策審議監いいですか。発言なかったですけど、大丈夫ですか。

○奥菌政策審議監 私は後方支援のほうをしておりますが、全般的にはいろんな課題があって、スケジュールちゃんとやらないと間に合わないことは、御指摘のとおりだと思います。現行の体制の中ではなかなかやりきれないということも、今、高野先生がおっしゃるとおりでございます。今、総務部とともに来年度の体制について協議をしております、今、今後押しを受けまして、しっかりとやらせていただけるような体制づくりに邁進しておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○溝口幸治委員長 はい、ありがとうございました。

ほかにございませんか。

なければ、これで本日の委員会を終了いたします。お疲れさまでした。

午前11時29分閉会

熊本県議会委員会条例第29条の規定により
ここに署名する

国際スポーツ大会推進特別委員会委員長